

【実践】健康サポート薬局

関西メディコ(奈良県)の取り組み事例

患者情報共有するICTネット構築で 高まる薬剤師の存在価値

健康サポート薬局を地域医療の担い手と見なす「患者のための薬局ビジョン」では、高度な薬学的管理ニーズへの対応からセルフレア支援まで多岐にわたり、かかりつけ機能の発揮が求められている。その回答が待たれる中、奈良県内で「サン薬局」チーン(58店舗)を展開する関西メディコ(安井将美社長)は、自ら主宰して医療・看護・介護・薬局を双方向に結びICTネットワークを構築。多職種連携による患者主体のケアづくりを急ぐ。同社専務取締役の山下寿々代氏に現状を尋ねた。

本来の業務が評価された
今回の調剤報酬改定

平成28年度調剤報酬改定をどのように評価していますか。

「そもそも医薬分業のスタンスは『かかりつけ』にあったはず。創立5年目から薬歴をオンラインで共有し、どのサン薬局をご利用されても服薬指導の内容をチェックできる体制を築いてきました。その意味で今回の調剤報酬改定は、本来の業務が評価されたのだと受け取っています」

背景として服薬指導の意

「新設された『かかりつけ薬剤師指導料』『かかりつけ薬剤師包括管理料』は、大きなチャンス

「現場の薬剤師に聞く」と『地域包括ケアシステムのエリアとされる中学

「オンライン薬歴や本社一括仕入れによるスムーズな薬品供給からスタートし、小児の在宅や末期の緩和在宅ケア、無菌調剤室での中心静脈栄養

「エリアを限った密な新店舗を持つ当社が地域を

「調剤薬局は、最も身近な健康相談の窓口です。小児の訪問看護は数が限られており、ひとた

の医師・医療機関が集まることで情報が膨らみま

「4月から電子情報での紹介に30点のフィーが付きましたが、当社のシ

「調剤薬局は、最も身近な健康相談の窓口です。小児の訪問看護は数が限られており、ひとた

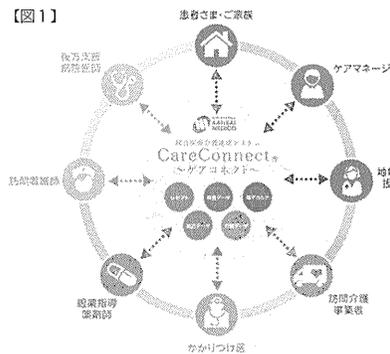
「調剤薬局は、最も身近な健康相談の窓口です。小児の訪問看護は数が限られており、ひとた

話題を追って inside outside



【略歴】1984年(昭和59)年大阪薬科大学卒業。92年関西メディコ第1号店「サン薬局真美ヶ丘店」に管理薬剤師として入社。94年社代表取締役。育休復帰後の01年より現職

見えてきた地域調剤薬局チェーンの可能性



「調剤薬局は、最も身近な健康相談の窓口です。小児の訪問看護は数が限られており、ひとた